JICA海外協力隊　環境教育隊員
境 純一

チリ通信

vol.20
2025.5.5

NEWS LETTER

宗教の存在

チリで暮らしていると、日本にいるときよりも宗教に触れる機会がぐっと増えます。宗教の話題が日常会話で出るのはごく自然で、現地では宗教に関連した行事や慣習も多く、日常生活の中にしっかりと根付いていることを感じます。実際、統計によるとチリでは国民の8割以上が何らかの宗教を信仰しており、そのうち約9割がカトリックだといわれています。もちろん信仰の深さには個人差がありますが、それでも宗教はチリ社会を形づくるうえで欠かせない存在であることは間違いありません。

生活の中での気づき

そんな中、現地の人はよく私に「宗教を信仰している？」と尋ねます。あまりに頻繁に聞かれるので、今では「何も信じていないよ」と答えるのが、すっかりお決まりのやり取りです。しかし最近、自分の中には「神道」の考えがあることに気づきました。例えば、食事の場面です。現地では「すべての食べ物に感謝すること（『いただきます』や『ごちそうさま』を言うこと、食べ物を残さない）」といった、日本人にとってごく自然な習慣が一般的ではありません。こうした文化の違いを感じ取る中で、自分の中には神道的な価値観があることを発見しました。「何も信じていない」と思っていた自分にも信念や考え方がある。これは、自分にとって大きな気づきのひとつだったように思います。

自宅の近くの小さな教会。こうした教会が町の各地区に建てられています。

大きな教会に入ると、その豪華さと同時に、神聖で静かな雰囲気に圧倒されます。

宗教＝悪？現地で変化した印象

正直なところ、初めは宗教に対してあまり良いイメージを持たないままチリに来ました。日本では宗教に関するネガティブなニュースばかりが目に入り、私自身、宗教に対してどこか偏った印象を抱いていたためです。
しかし、現地での生活を通して気づいたのは、宗教を心の支えにしている人々や、宗教によって救われている人が実際にいるということです。教会で礼拝する人々の姿を目にしたり、現地の人々の話を聞いたりする中で、「宗教＝悪」といった極端な見方は、少しずつ変わってきたように感じます。
宗教というテーマだけでなく、世のさまざまな物事はネット情報などの二次的な情報だけで全てを判断するのではなく、自分の目で見て確かめることも大事だなと改めて認識しました。